

地 図

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称	教科書名
2 東 書	新編 新しい地図帳
46 帝 国	楽しく学ぶ 小学生の地図帳

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点	視点	方法
(ア) 基礎・基本の定着	① 単元や活動の取扱い・説明の仕方の工夫	地図の見方の記載例
	② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例
	③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	環境、国際理解等の学習への活用
(イ) 主体的に学習に取り組む工夫	④ 興味・関心を高めるための工夫	興味・関心を高めるための記載例
	⑤ 課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫	作業的・体験的な学習課題の例
(ウ) 内容の構成・配列・分量	⑥ 単元や資料等の配列	統計資料及び地図の扱い
(エ) 内容の表現・表記	⑦ 学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用	資料等の活用方法の記載
(オ) 言語活動の充実	⑧ 観察・調査や各種資料の活用の工夫	地図を活用した調べ方の事例
	⑨ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫	地図を活用した表現の事例

【地図】

観点	(ア) 基礎・基本の定着	
	視点	①単元や活動の取扱い・説明の仕方の工夫
	方法	地図の見方の記載例

東書	○ 読図に関しては、『地図帳の使い方①』で、地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現について説明している。その後、『地図帳の使い方②』で、「県の様子を読み取ろう」「地域をくわしく見てみよう」を例示している。(4)
帝国	○ 読図に関しては、『地図のなりたちとやくそくごと』の「地図のやくそくごとを知ろう」で、方位、土地の高さ、地図記号、距離と縮尺について説明し、その後、『地図帳の使い方①-②』で具体的な活用の仕方を例示している。(6)

『 』は主題名、「 」は項目名、()は使用ページ数

観点	(ア) 基礎・基本の定着	
	視点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
	方法	国土の地理的環境や歴史的事象が記載された地図の例

東書	○ 『日本とそのまわり』で近隣諸国や地理的環境を表記している。また、各地方図の中に主要都市の拡大図を掲載している。 ○ 『日本の歴史と文化ー世界文化遺産ー』の「むかしの国」で、明治元年当時の名称と歴史的名所や各地の祭りの位置をイラストで示している。 ○ 各地方図には、歴史的事象・建造物等を地図上に青地に白抜きで文字で掲載している。
帝国	○ 『宇宙からながめた日本列島』や『日本とそのまわり』で近隣諸国や地理的環境を表記している。また、各地方図の中に、特色ある地形等の鳥瞰図を掲載している。 ○ 『日本の歴史』の「③むかしの境界」で明治元年当時の名称を、また、「①日本の歴史のおもなできごと」で、年表とともに主なできごとについて各地方図中の頁数も掲載している。 ○ 各地方図には、歴史的事象・建造物等を地図上に青地に白抜きで文字で掲載している。

観点	(ア) 基礎・基本の定着	
	視点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
	方法	環境、国際理解等の学習への活用

東書	○ 巻末の『世界の国々』で世界の国々の国旗を、また、世界の各地方図では、物産や建物・地域の特色を示すイラストや写真等を掲載している。 ○ 各地方図に環境保全に関する、世界遺産・ラムサール条約登録地・世界ジオパーク登録地等を記号で示している。
帝国	○ 巻末の『世界の国々』で民族衣装・あいさつの言葉、また、世界の各地方図で、地域の国旗や特色を示すイラストや写真等を掲載している。 ○ 各地方図に環境保全に関する、世界自然遺産・ラムサール条約登録湿地・貴重な動植物等を記号で示している。

【地図】

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④興味・関心を高めるための工夫
方法	興味・関心を高めるための記載例

東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全般にわたって、キャラクターの吹き出しで、地図活用の手がかりやその土地の様子、エピソード等を紹介している。 ○ 『日本の歴史と文化－世界文化遺産－』で、昔の国名がついている食べ物や世界文化遺産等を写真やイラストで紹介している。 ○ 『世界のおもな国の統計』で、オリンピックとワールドカップの開催国を地図上に色分けして示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全般にわたって、キャラクターの吹き出しで、学習ポイントやその土地の様子、エピソード等を紹介している。 ○ 各地方図で、広島市の原爆被害状況、神戸市付近の災害へのそなえ等、各地域の特徴的な内容を紹介している。 ○ 世界の各地方図の「世界一周写真館」で、各地域の特徴的な生活や行事等を写真で紹介している。

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑤課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫
方法	作業的・体験的な学習課題の例

東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターの吹き出しで、「中国地方を東西に走る高速道路を指でたどって、どんな都市を通っているか確かめてみよう。」等、作業的な学習を例示している。 ○ 『世界全図と地球儀』の「地球儀を使って調べる」で、紙テープやトレーシングペーパーを使って、方位や国の大きさを調べる方法を写真入りで掲載している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『地震・火山の災害と防災』では、防災マップづくりの手順を示す等、日常に生かせるような体験的な学習を例示している。 ○ 『私たちの地球』の「地球儀を使ってみよう」で、紙テープを使って、距離や方位を調べる方法を写真入りで掲載している。

【地図】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑥単元や資料等の配列
方法	統計資料及び地図の扱い

東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本列島全体を見渡す地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、主題図、統計資料、索引と系統的に配列している。 ○ 各地域を比較できるように、日本全図は縮尺 400 万分の 1、各地方図は原則として 100 万分の 1（北海道は 160 万分の 1）、都市圏などの拡大図は 50 万分の 1、世界地図は 400 万分の 1 で統一されている。 ○ 陸の高さや海の深さが、地図に応じて細かく色分けされており（9 段階～17 段階）、土地利用も商業地、住宅地などを 8 種類で示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本列島全体を見渡す地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、主題図、統計資料、索引と系統的に配列している。 ○ 各地域を比較できるように、日本全図は縮尺 400 万分の 1、各地方図は原則として 100 万分の 1（北海道は 200 万分の 1）、都市圏などの拡大図は 50 万分の 1、世界地図は 400 万分の 1 で統一されている。 ○ 日本列島や地方図では、隣接地域の地図が何ページにあるかを記号で表示し、隣の地図とのつながりを示している。

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑦学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用
方法	資料等の活用方法の記載

東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳の使い方を巻頭に配置し、地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、都道府県・地域図の見方等について、イラストや写真等を使って説明している。 ○ これまでの学習で調べた項目が記録できるように、索引の項目ごとにチェック欄が設けられている。（掲載数：日本の地名 約 2200 項目、世界の地名 約 470 項目）
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳の使い方を巻頭に配置し、記号、色（土地利用、土地の高さ）、索引、縮尺、都道府県の調べ方等について、イラストを使って説明している。 ○ 『さくいんの見かた』で、地名の種類を表す記号・色、列記号と行記号による場所の探し方を示している。（掲載数：日本の地名 約 2000 項目、世界の地名 約 260 項目）

【地図】

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑧観察・調査や各種資料の活用の工夫
方法	地図を活用した調べ方の事例

東書	○ 『地図帳の使い方①』の「どこにある？（さくいん）」で、索引の使い方をまんがで説明し、地名の調べ方を例示している。
	○ 全般にわたって、キャラクターの吹き出しで、具体的な観察・調査方法を掲載している。
帝国	○ 『資料、統計』で、ページの上段の言葉やキャラクターの吹き出しで、調べる視点等を示している。
	○ 『地図帳の使い方①』で、索引の使い方をキャラクターの吹き出しで説明し、地名の調べ方を例示している。
帝国	○ 全般にわたって、ファイルを模した枠やキャラクターの吹き出しで、具体的な観察・調査方法を掲載している。
	○ 『資料のページ』の「トライ！」で、学び方や調べ方等の簡単な作業を指示し、資料活用の仕方を示している。

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑨調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫
方法	地図を活用した表現の事例

東書	○ 『日本の自然－気候－』で、各地域の降水量のグラフと関連付け、地図を活用した降水量の表し方を示している。
	○ 日本の自然、食糧・工業生産、貿易、歴史と文化について主題図で示している。
帝国	○ 『地震・火山の災害と防災』の「防災マップづくり」で、地図を使ったまとめ方のヒントや手順を示し、地図の作品例を掲載している。
	○ 日本の自然のようす、日本の産業のようす、日本の歴史について主題図で示している。